

アツ島奪還の射撃

過ちを再びせざる覚悟

今日のエルバンス社説如次

我が米海軍はアツ島奪還戦に備  
 日を費したが今尚ほ頑強なる敵の逆襲に遭つてゐる。敵は過去一年間に近代戦時的防備のあらう限を費してゐるから我軍は上陸に際して一方ならぬ辛さ目に會つた。それでも勝算はあるのだが其犠牲が何れ程か想像が出来ない程だ。然し之を奪還せしめ彼等が築いた基地を我が軍が利用出来る之に依つて日本に對し愈々攻勢がとれる故に之以上の蛇足を加ふる必要はないか米國市民として驚疑する権利あることは何故過去やがて一年もの永い間この三島を日本に與へて居たかといふ疑問である。疾風の昔に彼等も掃蕩してゐたはずはならぬといふのが常識である。遮莫我等の學んだ高價なる

このアツ島奪還の射撃は將來の我國を裨益すること少からずであらうと

日本空軍アツ島救援

十五日の日本爆撃機はアツ島の警備隊救援の爲め猛烈なる妨害を被り軍に對し試みたが成功しなかつたといふ。海相は奈末した周日本空軍はラムエロから飛来したものと考へられてゐると

米兵戦死五千超過

東京放送は次々傳へた日本軍情報部長矢野那賀は、將はアツ島日本警備隊は断然不落の軍事的重要地点に據り最後五分迄の必勝を期して防戦中なり敵の戦死者五千名を超過す

土蜘蛛のやうな日本兵

従軍記者の苦戦談

アツ島上陸隊附従軍記者UP特信 金山白雲に被水氷結されて居るアツ島へ上陸した我が米國軍は山岳の要塞に於て所は機関銃座を備へた日本軍に眼下の位置であるマサカシ灣から進撃せしめはならぬ其の苦戦は想像に余りある。深い霧に包まれ要害の地を占めてゐる日本軍は我軍を引き付けば天邊から猛射を浴かせかけて来る勇

敵なる我軍は長距離砲を以て敵の要害を破壊して居るが悪天候に阻まれて攻撃力が完全とは言へない。殊に日本軍は色々のトリックを用ひて我軍を苦しめんとして居る。彼等は狐の穴を利用してトンネルを穿ち出所進退を自由に居る。接近すれば手榴弾と機関銃のお見舞を狐の穴を掘り下り地下に十字線のトンネルを作つて前線への命令は筒を以てつて居るといふ狡猾さだ。ラッセル電報も持たぬ我軍の苦戦は實に酷い攻撃戦である。(ラッセルアベル記者)

タフト未元人逝く

前大統領並に大審院判事であつたウィリアム・マホントの未亡人は五月十日華府自邸で逝去した享年八十一現オハイオ州上院議員ロバート・マホントの母であり本日午後三時アトントン墓地で葬儀執行した

交換船出発期迫る

日本の意向として米國各務省で発表したことは現在の所では千五百人と其の数を限る米國戦時捕虜と同数の日本人と交換する者通知があつたといふ(三島参照)

次期大統領は誰ぞ

明年のアフセンカーウォートは全米の五分の一の多数に達するが蓋しこの投票こそ一九四四年の大統領が誰になるかを物語る唯一の標準であるといふと観測される

ストライキ續出す

シヨロマウオーカー九千人はオハイオ州アイコンのファイヤーストーンラバ会社及ケドリツツ会社に對し罷業開始した

六州の水害激甚

ミシシッピ川の洪水尚ほ増水し軍隊出動して救済に努めてゐるが其の惨状言語に絶し百年前の記録を破るばかりの増水であるといふ

ロニエニエース

△聯合國食糧會議はデイブルグロースのホコリヤへ窓外へ捨てた程秘密にしてゐるがハイマール五万本スマツグールの噂がある

△ペーパー上院議員は世界合衆國大統領にルイス・ウェルトを投票すると叫ぶ

△米國のペーパー支那人に移民割当制を許すべく移民法改正が議會の問題となり賛成論者は之を許しても一年百数名の入國に過ぎぬと主張

米穀空前の戦費

我々米国民に與へられた戦争の價額は如何に意見を異にして居ようとも一且議會が承認したら戦々國民は此の要求に従はねばならぬ海軍の歴史的大豫算案、或る見拾四億六千三百六十八万七千九百八十八兩が議會を通過した其の割合前後に陸軍割當の大豫算案、或る見八億九千八百四拾九万九千七百九十九兩に於て提出されたこの膨大なる陸海軍總豫算は毫十の拾三億六千二百八拾八万六千八百九拾八兩となり實に天

悉くが此を負はされた巨大なる豫算は決定的の爲に於て我々を這巡して居るのではない事、我々個人の上に迫つて居るのである勝利を収めねばならぬのである金額の大小を考へて居る場合ではない戦争に勝つために我々は重税にも耐へ國債を出さるべき買ひ國家の方針と希望に添ふ義務を果すより外我々は如何ともする事は出来ない、他に方法は無いのである

エルバントタイムスより

第三回交換紙は近く出帆、華府(國際電)本國務省は懸案であつた日本政府とのインデニクス交換の同意

誤る祖先 (一七七)

然しなから米國人は日本がこんな私闘をなす事をやるのは豫期してゐる處であつた。學校内で或少数は私の態度に誤水

或程度の犠牲を拂はなくてはならぬ其故に我々日系市民も亦此の犠牲を拂ふべきである

砂丘詩社 五月詠草

かにかくに砂塵を洗ひ肌を潤はせ、皺を肌を思ひこころすれ、もたし立つ山か人ものおかたかと

眞剣に語つた

眞珠涙、波撃手に驚く、パールパールの波撃手を思ひ出した遠藤敦子は

情歌

人自かられて青黄赤のほとり、恙も其身をふん二人り連れ、風がもて来る若草沫のかほり、もゆる思ひをのつらせる

眞剣に語つた

眞珠涙、波撃手に驚く、パールパールの波撃手を思ひ出した遠藤敦子は

情歌

人自かられて青黄赤のほとり、恙も其身をふん二人り連れ、風がもて来る若草沫のかほり、もゆる思ひをのつらせる

眞剣に語つた

眞珠涙、波撃手に驚く、パールパールの波撃手を思ひ出した遠藤敦子は

情歌

人自かられて青黄赤のほとり、恙も其身をふん二人り連れ、風がもて来る若草沫のかほり、もゆる思ひをのつらせる

眞剣に語つた

眞珠涙、波撃手に驚く、パールパールの波撃手を思ひ出した遠藤敦子は

情歌

人自かられて青黄赤のほとり、恙も其身をふん二人り連れ、風がもて来る若草沫のかほり、もゆる思ひをのつらせる

眞剣に語つた

眞珠涙、波撃手に驚く、パールパールの波撃手を思ひ出した遠藤敦子は

情歌

人自かられて青黄赤のほとり、恙も其身をふん二人り連れ、風がもて来る若草沫のかほり、もゆる思ひをのつらせる

眞剣に語つた

眞珠涙、波撃手に驚く、パールパールの波撃手を思ひ出した遠藤敦子は